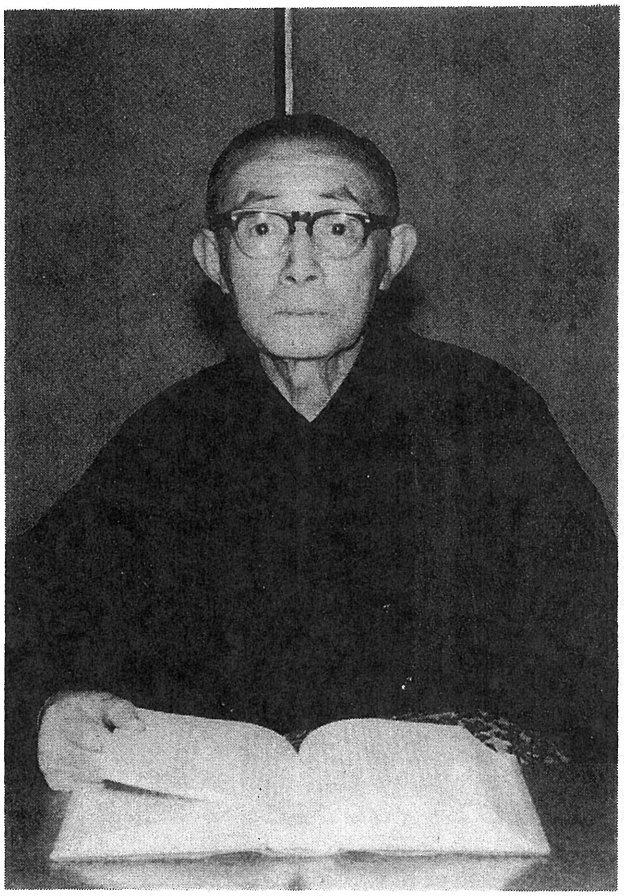


郷土史の研究と発表

高橋克三（たかはしかつぞう）

（82才）

現住所　鹿角郡十和田町

高橋氏は、長年にわたり小学校長として子弟の教育に尽くされるとともに、郷土史の研究と資料の収集につとめられ、昭和５年に「近世鹿角郡学統考」を、昭和13年には「毛馬内郷土読本」を編集これを出版されました。また郷土出身の内藤湖南及び石川伍一両先生の研究に尽力され、昭和40年には両先生の生誕100年記念祭を主宰し「湖南博士と伍一大人」の著書を出版されるなど郷土文化の振興に大きく貢献された。

老人福祉の向上

佐藤欣一郎（さとう きんいちろう）

（77才）

現住所　大曲市

佐藤氏は、昭和32年に全県にさきがけて大曲市に老人クラブ（寿楽会）を結成し、老人福祉の指導にあたられ、全県的に老人クラブの結成をも呼びかけて、昭和37年には秋田県老人クラブ連合会の結成を提唱して、その実現とともに初代会長となり、この間私財を投じて連合会の強化に努め、１円ポスト運動、全国植樹祭後の組織的清掃奉仕活動、研究クラブ設定など、高令者の福祉向上と健康増進を指導され、更に連合会の法人化など老人の幸わせ、老人の福祉向上に献身的な努力をされた。

青少年の非行防止と健全育成

高瀬忠広（たかせ ただひろ）

（74才）

現住所　秋田市

高瀬氏は、年々増加する青少年の非行化の傾向を憂い、非行防止と健全育成のため広く市民に呼びかけ、同志を結集して秋田市少年保護育成会を結成、さらに各学校と職場との有機的な運営をはかるため、市内中学校学区単位に地区協議会を結成してＰＴＡ校外指導部員との補導体制を確立された。また、高校生の非行防止対策として市内高校懇話会、職場で働く青少年の非行防止対策として、秋田市勤労少年補導委員会を組織するなど、長年教育界において体験された指導性を十分に発揮され、地域における社会教育に献身的な努力をされた。

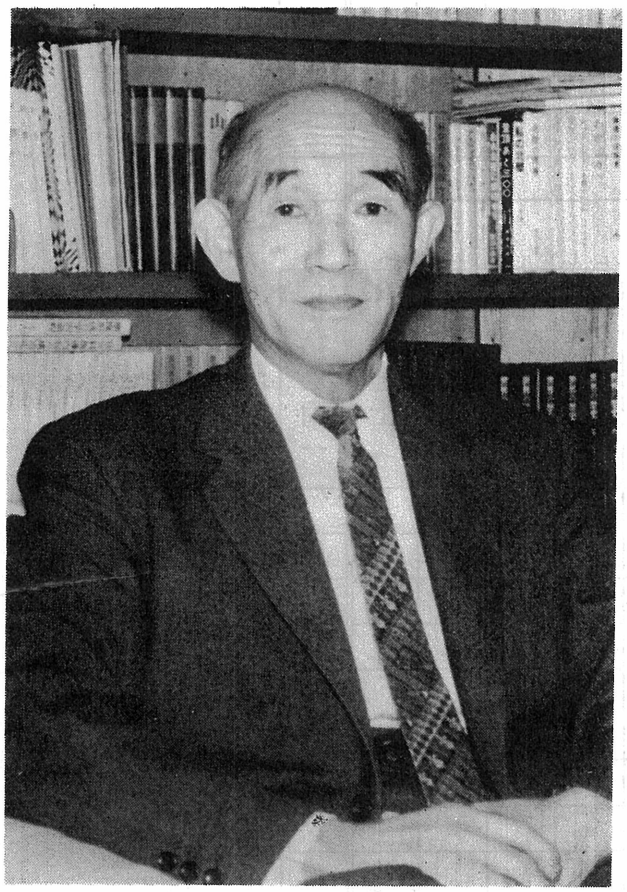
茶道の普及と情操教育

小泉（こいずみ）　キクヱ

（73才）

現住所　秋田市

小泉氏は、早くから茶道の普及に志ざし、昭和18年に茶道裏千家淡水会秋田支部を結成し、副会長としてその普及に尽され、27年間にわたり支部会員5,000名を指導し、毎年行事として茶道大会、月例茶会を各地で開催したほか、職場茶道の普及にも意を注ぐなど、子女の情操教育に尽力された。また秋田市建都350年にあたる昭和28年には同志とともに千秋公園霊泉台の旧藩茶室跡に茶室宣庵を新築されたほか、秋田国体、博覧会、種苗交換会などに協賛茶会を開くなど本県茶道の興隆に大きく貢献された。



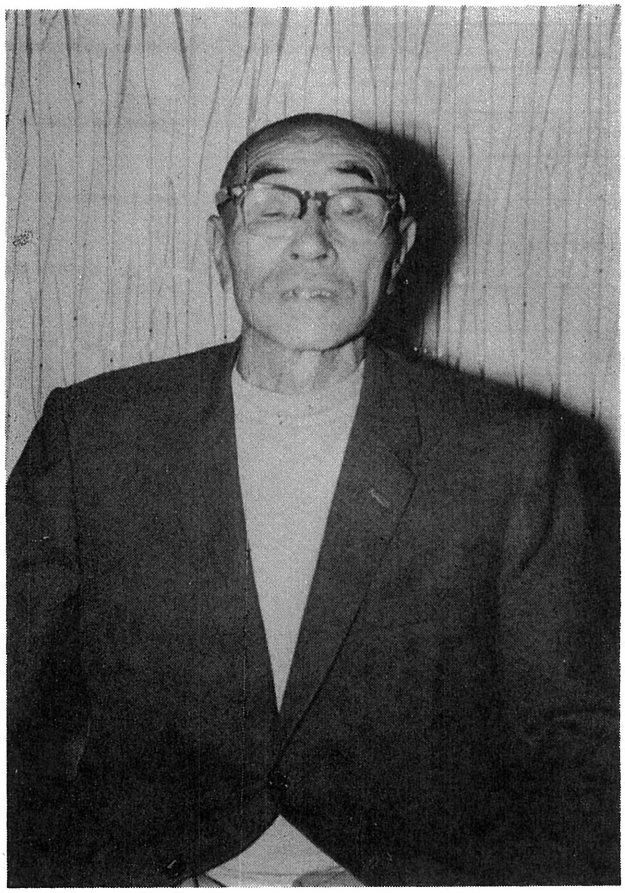
種苗交換会史の編さん

泉（いずみ）　金（かね）　雄（お）

（68才）

現住所　秋田市

泉氏は、秋田県農業協同組合中央会企画の秋田県種苗交換会史の編集にあたり、その常任委員として、全県下の先輩諸賢の家を訪問しで資料の集収にあたられ、長年の才月をかけて明治、大正、昭和の一世紀にわたる秋田県農業発達史ともいうべき大冊を完成されて、本県農業の歩みを集大成された。氏はまた農業教育者として、農家経済と農民の心理の究明に努められ、自主独立の気概を根本理念として多くの農業指導者を養成されるなど、農業の発展に大きく貢献された。



稲作技術の向上と研究

正木喜一郎（まさき きいちろう）

（68才）

現住所　由利郡由利町

正木氏は、戦中戦後の食糧不足時代には供米の早期完遂を呼びかけて、生産者の供米意欲を高め、近年は「秋田にしき」としてのハツニシキの普及奨励に努められて「うまい秋田米」の声価昂揚に努められている。さらに稲作技術の研究に尽力され、肥料の合理化、品種改良のほか、寒冷地稲作の安定は健苗の育成にあるとして、特に苗代土壌の性質に合致した施肥法及び苗代管理技術の普及に尽くすとともに昭和15年に農事研究会を組織し、リーダーとして指導にあたるなど、稲作技術の向上に大きく貢献された。

現代詩の導入と普及指導

坂崎（さかざき）　タカ

（筆名　沢木隆子）

（63才）

現住所　男鹿市

坂崎氏は、長年にわたり中央詩壇で活躍され、秋田に初めて現代詩を導入して県内詩誌のリーダーとして後進の指導育成に尽くされ、また県詩人クラブを結成し、詩壇の興隆発展に努められた。この間秋田魁新報及びＮＨＫの「詩と随想」の選者として活躍され、特に盲人、長期療養者に対して詩の指導をされたほか、随筆詩を通じて全国に秋田を紹介するとともに郷土の民話「なまはげ」「佐保姫物語」の放送劇を執筆し、さらに男鹿市に「ふきのとう演劇研究会」の発足を促し「なまはげ」「一の目潟」の脚本を執筆するなど、本県の文化の向上に大きく貢献された。